2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年１０月５日
● 事　業　名　：　自然資源活用での地域生活を目指す方の独立支援事業
● 資金分配団体　：　地球と未来の環境基金
● 実 行 団 体　：　株式会社　ワイルドウインド

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
自伐型林業学校が定期的に開催する。	年に何回開催され、のべ何人が受講したか。	2 カ月に 1 回、年間 6 回程度定期的に開催する。(5 日コース 3 名 x 6 回を目安に→年間のべ 18 名程度)	事業終了時点	2022 年 4 月より集合研修ではなく OJT での受入れに変更した為目標値が変わっている。 現在 5 名が定期的に通いながら共に現場を進めている。	2
ミニ自伐型林業学校が定期的に開催する。	年に何回開催され、のべ何人が受講したか。	月に 1 回、年間 12 回程度定期的に開催する。(2 日コース 4 名、x 10 回を目安に→年間のべ 40 名程度)	事業終了時点	毎月 2～3 回定期的に開催出来ている。	2
自伐型林業学校開催時に講師候補者が指導経験を積む。	何名が年間に何日間講師経験を積んだか。	1 年間に作業道講習で 30 日、伐倒講習で 15 日を目標とす	事業終了時点	OJT 方式への研修に伴い、研修生が現場へ来	2

		る。		る日は全て指導経験となっている。　個別対応のよりきめ細かい指導方法にチャレンジしている。	
学校運営に必要な機材の確保をする。	十分な講習をするだけの資機材が整っているか。	毎回 3 名を受入れる為にバックホーを 3 台に増台。　他の機械は必要に応じてメンテナンスと入れ替えを行う。　初級講習用のヘルメット、防護具、チェーンソーを導入する。	バックホー1 台、ﾁｪｰﾝｿｰ、ヘルメット、防護服は初年度。2 台目のバックホーは事業終了時点。	チェーンソー、ヘルメット、防護服を取得済。バックホーを 2022 年 3 月に納車済み。 OJT 方式の受入れに 2022 年度から変更したため、3 台目導入予定の講習用バックホーは現在不要となっている。	2
講習用の山林現場をメニューに合わせて随時確保する。	初級から上級までに合わせた講習が出来る施業山林が常時確保出来ているかどうか。	山下の山主（約 1500ｈa)、他吉野山主有志の会と連携して常時確保されている状態を作る。	現時点で確保出来ている。	確保出来ている。	2
安定して自伐型林業学校を開催できる活動拠点を確保する。	受講生が宿泊可能な施設が確保できているかどうか。 トラックや重機等大型の資機材が保管出来る場所が確保されているかどうか。	民泊おいなりハウスで多人数（6 人程度）の宿泊も可能となるように、座学教室としても使用できるように（8 人程度）整備されている。	事業終了時点	おいなりハウスで、定員 6 人で宿泊可能となっている。 資機材の保管場所も確保出来ている。	2

八千代の森メンバーが在籍する天川村で、自治体内の課をまたいだ協力が得られる関係を構築する。	村内で課をまたいだ協力が得られているか。	3 年の退任後、双方の課から独立支援を受けられる体制づくりをする。	事業終了時点	天川村地域政策課とキャニオニングツアー等での連携について協議中。	2
村内の民間施設との協力共存関係を構築する。	村内の民間施設との共存関係は出来ているか？	てんかわ天和の里のキャニオニングツアーが継続して定着し、その他の施設も巻き込んだ関係が出来ている。	事業終了時点	天和の里をベースにキャニオニングツアーを続けられるように協議中で、今シーズンツアー受付中 (9 月末まで)。ツアー後の天の川温泉への入浴提携も協議中。	2
活動を発信できるウェブページを整備する。　定期的に活動情報を発信する。	発信できる場が整備されているか。	ウェブページを整備する。フェイスブック、インスタグラムで情報をアップしていく。	事業開始初年度	ウェブに自伐型林業学校と＠おいなりさん（ミニ自伐学校）をアップして発信している。	2
全国からの相談が受けられる、ピンポイントでの情報発信が出来るネットワークを構築する。	ネットワークは作られているか。	自伐協、地域推進団体、各地の自治体とも連携して、新たな担い手の情報が共有できている。	事業終了時点	自伐協とは関係が出来ている。その他の団体は各団体で研修や相談等を実施するようになってきており連携しての全国からの相談の必要性が薄れてきている。	4

持続的な森林施業により収入を得る仕組みの構築する。	収入の流れと見通しが具体的に示されているか。	事業計画などを作成し具体的に収入がイメージで出来る様にする。	事業終了時点	2021 年度、山主組織と協議し、2022 年度、山主組織による集約化された山の、道づくり、搬出間伐の事業を請け負っている。	2
林業以外での複業で収入を得る仕組みの構築	アウトドア事業、藍等の活用による農業事業、特殊伐採や草刈等の山村維持事業の 3 本を当面の柱にするべく、業として通じる技術知識の習得と、収入の流れと見通しが具体的に示されているか。	年間を通した林業を含む複業の組み合わせでの事業計画などを作成し収入のイメージを作る。	事業終了時点	特殊伐採の講習が中止になったため次年度に持ち越しになっている。アウトドア事業、電線整備の仕事などで収入を発生させられている。藍の栽培を進行中。	2
吉野の山守として施業活動できる山林を継続的に確保する。	山林が継続的に確保できているかどうか。	地域おこし協力隊を退任してくる者の人数分が確保出来ている。	事業終了時点	山主組織や大和森林管理協会との間で順調に確保出来ている。2023 年度予定の山林の事業計画も進行中。	2
県内各自治体と連携して、地域おこし協力隊制度を活用しながら新たな担い手育成活動が続いている。	地域おこし協力隊が継続して募集、着任出来ているか。	4 村において、毎年半林半 X の地域おこし協力隊を 2 名程度採用している。	事業初年度から終了後	川上村に 1 名、天川村に 1 名 2022 年度より着任している。	2
副業的、ボランティア的に自伐型林業に関わる方が増え、収支	副業的に自伐型林業に関わる方が実際に山守と協働し	5 グループ程度が生まれている。	事業終了時点	@おいなりさん（ミニ自伐学校）のメンバー	2

を合わせにくい山への手入れも進める。	ているか。			を増やす為の活動を秋から実施。	
八千代の森メンバーが主体的に活動する組織を構築する。	メンバーは主体的に活動し責任を持っているか。	メンバーそれぞれが担当の役割を持って、何らかのリーダーとして責任を持っている。	事業終了時点	必要に応じて役割分担が出来つつある。	2
事業終了後5年を見据えた中長期の事業計画を作成し共有する。	長期的な収入計画を見据えているか。	長期事業計画を作成しメンバーで共有する。	事業終了時点	長期計画は口頭では共有しているが、新規案件が常に舞い込んでくるので計画は立てにくい。リスクヘッジも兼ねてマルチの複業を増やす方向で調整中。	2
現役の講師が直接指導者候補生を指導する。　技術や知識は勿論、すぐ側で過ごす事による想いの伝達にも重きを置く。	新たな指導者が育っているか。	作業道講師、2 名、作業道準講師、2 名 伐倒講師、2 名、伐倒準講師、2 名 合計 4 名が何らかの講師が出来る	事業終了時点	2022 年 4 月より OJT 方式での研修がスタートしている。日々仕事を進める中で、指導者、指導者候補、自伐研修生の時間が出来ている。	2
居住する自治体以外での地域でも、林業や複業で収入を上げ、新たな担い手育成にも関わるメンバーが出る。	居住自治体以外の役場や地域おこし協力隊と関係協力して収入を上げている者が何人いるか？	5 名程度が自治体を超えて活動している。	事業終了時点	2022 年 7 月より 2 名が地域おこし協力隊を卒隊し、独立して始動している。その 2 名は林業や複業で収入を得始めている。2023 年 4 月卒業のメンバーの受入	2

				れ準備を秋以降開始する。	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ 変更なし ☐ 短期アウトカムの内容 ☐ 短期アウトカムの表現 ☐ 短期アウトカムの指標 ☐ 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
OJT 方式の研修にした為、少人数となり感染対策にもなっていると思われる。 @おいなりさんの活動では昼食時に部屋を分けたり距離を取ったりして対応している。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

2.広報制作物等

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全般	山下　淳司	代表取締役
内部	全般	平野　亮	事務局長

A）事業のアウトカムの進捗状況の評価

①　短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
全国で反林半 X の生活を目指す方々 副業的に自伐型林業に関わりたい方	学校参加者の中から何名が実際に、自分の現場で自伐型林業をスタートさせているか／副業的に自伐型林業の現場に関わり協働しているか	30 名が実働協働開始	事業終了時点	2021 年度は 5 日間の講習を 2 回開催し、参加者 4 名がそれぞれの現場で実働している。 過去の講習修了者を見てみると、作業道で技術的に自立自走するにはまだまだ先は長く、集合研修の限界を感じている。 各地方でも研修の環境が整備され個々の団体が独立して研修を開催するようになってきたため、八千代の森が中央機関として認識され大々的に研修を行うニーズが薄れてきている。 そのため 2022 年 4 月より集合研修ではなく OJT による、より実践的で個別に対応可能な研修方法に切り替えた。 現在 5 名が定期的に通いながら共に現場を進めている。

次世代の講師候補	新たな講師、準講師が育っているか。	作業道講師 2 名、作業道準講師 2 名、伐倒講師 2 名、伐倒準講師 2 名のうち合計 4 名が何らかの講師が出来る。	事業終了時点	事業開始時点では、作業道講師 1 名、準講師 1 名、伐倒講師 1 名の状態から、作業道講師 1 名、作業道準講師 2 名、伐倒講師 1 名、伐倒準講師 1 名の状態になっている。
資機材や現場の確保	資機材や現場の不足により開催不能となった講習の数。	上級や講師育成等も含めた全てのコースが安定的に開催出来る資機材と現場が揃っている。	事業修了 3 年後	2021 年度に防護具、チェーンソー、バックホーを導入したことにより資機材に関しては安定的に講習が出来る体制が出来た。現場に関しても 2023 年度分の現場作りの協議が始まっており継続的に順調に確保出来ている。
吉野地域での半林半 x での生活を目指すメンバー	吉野地域で暮らし続けている半林半 x のメンバーは何人いるか。	4 名以上が半林半 x での暮らしが成り立っている。	事業終了時点	2022 年 7 月より 2 名が地域おこし協力隊を卒業した。現在も在住村に残り自伐型林業とアウトドア等からの収入で新たな生活を始めている。
本事業の実行団体内部メンバー	会計や事務、営業などを分業する事によって継続的に組織的に運営される様になっているか。	事務、会計担当が確立されている。	事業終了時点	完全分業ではなく現在は会計と事務にメインの担当者を 2 名配置する事で、今後協力隊卒業者を配置して組織的に運営出来る基盤作りを進めている。

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある ☑ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	上記の変化改善のある短期アウトカムの４項目は、事業計画内の８項目のアウトカムに対して５０％の部分で変化改善が見られる事を示している。この４項目に関しては現状通り継続して進めて行く事で目標値を達成出来る見込みがあると言える。

B）事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動は計画どおりに実施されているか。 事業目標の達成の見込みはあるか。	概ね計画どおりに実施され、目標を達成できる見込みがある。	全国で反林半Ｘの生活を目指す方々に向けた自伐型林業学校の開催に関しては、各地方で研修の環境が整備され個々の団体が独立して研修を開催するようになってきたため、八千代の森が中央機関として認識され大々的な研修を行うニーズは薄れてきている。 そのため 2022 年 4 月より集合研修ではなく OJT による研修方法に切り替えている。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業の進捗において必要な見直しが行われているか。 事前評価以降、事業を取り巻く環境の変化はないか。	取り巻く環境の変化に応じて団体内部で随時話し合いが行われ、臨機応変な見直し・対応が行われている。	知見の共有に関しては、口頭ベースではあるが綿密にコミュニケーションがとれており、随時活動は改善されている。今後、関係するメンバーが増えていくにあたって、知見の明文化・共有の方法を構築中である。
組織基盤強化・環境整備	人材は育っているか。 新たに構築された人や団体との協力・連携関係はあるか。	事業の拡大や多角化にむけた新たな協力・連携関係を構築・協議できており、必要な人材、資機材、現場環境が順調に整っている。	山主組織との関係構築によって、現場での作業や講師だけでなく、経営計画や補助金申請などの仕事づくりまで担える人材や環境が強化・整備されつつある。 その他にも副業の多角化・収入の安定に向けて協働・連携する関係団体は増えており、より広範囲にわたる活動が展開していくことを予想している。

②　短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

OJT 方式での研修に切り替えたことによって、指導者、指導者候補、研修生がより実践的で密度の高い経験を積むことが可能になった。

③　事前評価時には想定していなかった成果

課題であった現場の確保について、山主組織から積極的に協力を得られるようになったため、森林経営計画や補助金申請などの知見を得ながら、自伐型林業の現場を一からつくりだす準備を進めている。これによって今後、現場作業の技術を教えるだけでなくその前段階である現場づくりまで含めて全国の自伐型林業を目指す方々のサポートが可能である。

またそれ以外でも吉野地域の内外において有力者とされる方々と繋がりが生まれており、事業の拡大･多角化が実現していくと予想される。

④　事業計画の改善の必要性の確認

- ☑ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- ☑ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- ☑ 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために ☑ 事業計画は適切に改善されたといえる ☐ 事業計画を適切に改善する見込みがある ☐ 事業計画の改善について、課題が残っている と自己評価する	中間評価を実施したことにより、アウトプットの進捗状況、アウトカムの達成状況を検証することができた。団体内部では普段から口頭ベースでの情報共有や事業改善が行われてはいるが、今回それらが整理・明文化され関係者の間で確認・合意が得られたため、事業計画は適切に改善されたと判断した。

⑤　中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

添付資料　　活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、３～4 枚程度）